

# SYNERGY

一宮北高校 第46回生 学年通信 第8号 2021/6/22

## ◆期末考査、到来

期末がやってきました。1学期の締めくくりとなる考査です。先日LTの時間に、進路学習の一環としてお子様に「まず現状を知ろう」という話をしました。その中で、学力と学習習慣の相関関係を示すグラフを紹介しました（**第7号 学年通信（生徒向け）参照、詳細はHPに記載しております**）。そこで今回は、その中でも要注意ゾーンである学習習慣がついていない生徒がハマる落とし穴についてご紹介します。

その落とし穴とは「同じ勉強量・同じ努力量ゆえに結果が出なくなる現象」です。実はカリキュラム上、以下のとおり1年次と比べると2年生は科目数が減ります。

コース	福祉実践	福祉探究	普通	
1年次	12科目	13科目	13科目	
2年次	11科目	11科目	文系	理系
			11科目	12科目

一方で、1週間の授業総数は32時間と変わりません。これはつまり、**各科目の内容が濃くなった**ということなのですが、危惧されるのは、減った科目に当てていた時間が浮いたから遊べると勘違いしてしまうことです。例えば13科目から11~12科目に減ったことで1~2科目分勉強時間に余裕ができたから自由時間が増えたと考える。しかし内容が濃くなった科目たちを1年次と同じ勉強量で網羅するのは難しい。結果、その科目に対して1年生のときと同じように勉強しているにも関わらず点数が下がる。そんな落とし穴にハマりやすいのが、学習習慣が不十分ながらもある程度学力が高いゾーンにいるお子様となります。本人は努力をしていますし、能率的に学習できていると思っているはずですが、しかし結果がついてこなくなってしまう。「頑張っているのに結果が出ないじゃないか」「やってられない」と感じてしまう可能性すらあるでしょう。もし、お子様で内容についていけなくなりフラストレーションを溜めているようでしたら、それは勉強量、即ち学習習慣が解決のカギかもしれません。



今回も**考査1週間前からAST後に社会科教室を自習室として開放しております**。静かに取り組むことを条件に、多くのお子様頑張れる環境となっております。学習量や学習環境に悩まれるお子様に勧めていただくと幸いです。

## ◆進路だよりとしての学年通信

**進路の知識を増やすこと**を目的として、生徒向けの学年通信を発行することとなりました。進路を切り開く上で知っておくべき知識や仕組みについて、定期的に更新していきます。刻一刻と変化する入試体制に乗り遅れないようにするためには自分から学びに行く姿勢が不可欠です。その際に必要な視点を養うことを目指しております。ホームページ**HPにも同じもの（カラー版）を記載していく予定です**ので、ぜひ定期的にご覧ください。また、7月12日の月曜日にはお子様に向けて類型別の進路説明会を行います。いよいよ進路設計が本格化していきます。こちらもぜひご家庭で話題に上げて頂けますようお願いいたします。